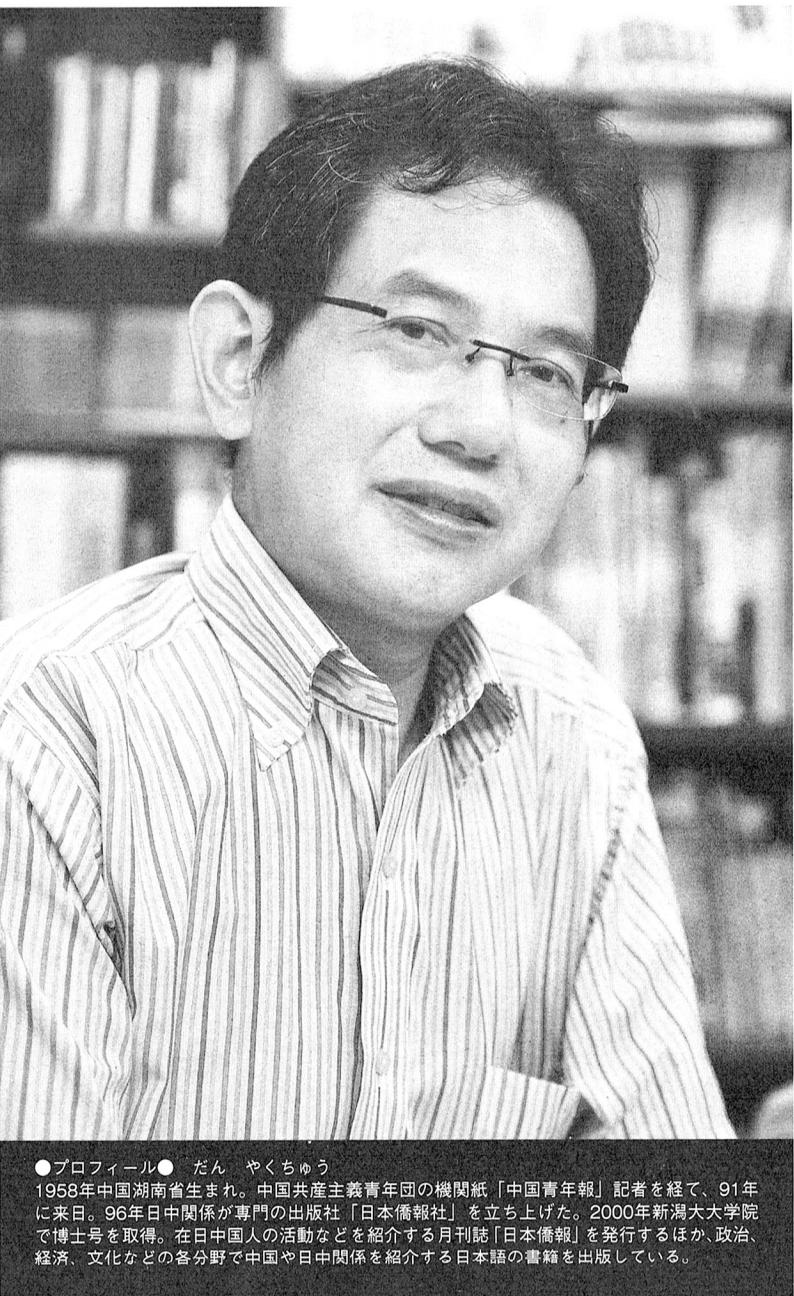


その後、持っていた黒いかばんがな
いことに気づいて。もしかしたらと、
さつきの電話ボックスに走って戻つ
たんです。そして、息を切らしながら
電話ボックスをのぞくと、なんと
電話機の上にその黒いかばんがそ
まま残されていた。本当に驚きまし
た。中国なら絶対にあり得ないです
から。世の中にこんな国があるのか
と思いました。

段 東京の下町の風呂もない4畳半のアパートでした。家賃は1万8000円。まずは仕事を見つけようとしたのですが、日本語ができないので、飛び込みで行つてもどこもダメでした。それで日本語ができる妻が片つ端から電話をかけてアルバイトを募集していいなか探してくれました。日本語はできないが、まじめに働くから使つてくれと。すると上野駅にある居酒屋さんが、それなら働

いてみるかと言つてくれたのです。
上野駅の構内で老夫婦がやつて
いる、10人ぐらいしか入れない小さな
居酒屋でした。午前中から夜中の11
時半まで。言葉が分からぬから、
ミニューを持つていつて「これです
か」つて指差しで一つ一つを確認
する。言葉は本当に苦労しました。そ
んな時、居酒屋を経営していた杉山
幸雄さんが日本語を教えてくれたん
です。午後の客が少ない時間に、新

中国人大全 中国を相手にビジネスを開拓する企業などから重宝された。在日中国人が多く暮らす東京・池袋の住宅街の事務所から世に送り出された本は約300冊。日中関係の理解に不可欠なあらゆるテーマにかかわる。だが、日本外交正常化から40周年で友好国名・釣魚島) 国有化をきっかけ



- プロフィール● だん やくちゅう
1958年中国湖南省生まれ。中国共産主義青年団の機關紙「中国青年報」記者を経て、91年に来日。96年日中関係が専門の出版社「日本橋報社」を立ち上げた。2000年新潟大大学院で博士号を取得。在日中国人の活動などを紹介する月刊誌「日本橋報」を発行するほか、政治、経済、文化などの各分野で中国や日中関係を紹介する日本語の書籍を出版している。

「日本人の優しさを知るから、民間交流にこだわる」

日本橋報社代表 久段躍中

日中の関連書籍を専門に出版

来日初日に好印象した。学生たちは熱気な

来日初日に好印象

「嫌中本」が売れる日本の出版界だが、段躍中さんは「相互理解に資する本を出し続けたい」とこだわってきた。原点は日本で触れた日本人の優しさにある。

—— 初めて見た日本はどうでしたか。

来日初日に好印象

でいっぱいでした。学生たちは熱気
にあふれていました。でも、残念な
がらその記事が紙面に載ることはな
かつた。伝えたいことを伝えられな
い。このまま中国でジャーナリスト
としてやっていくのは難しいのかも
しない。そう思うようになりまし
た。

実はその年の3月から妻が日本に
留学していたのです。離れて暮らす
妻との絆の問題もありましたし、そ
れで日本に行こうかと考えるようにな
った。伝えていたのです。成田空港
に着いたのは午後でした。妻はその
日、空港に迎えに来ることができず、
大きな荷物を抱えて自分でJR山手
線の巣鴨駅まで行きました。そこで
妻に連絡するために、電話ボックス
から電話をかけたんです。ところが

—— 日本で出版社の日本僑報社を立ち上げてから、来年で20年。中国では中国共産主義青年団の機關紙「中国青年報」の記者だったとか。

段 そうです。幼い頃から書くのが好きで、湖南省の地元ラジオ局に出した投書が読み上げられたことがあります。その体験がうれしくて、記者を志すようになり、北京の中国青年報に就職しました。中国各地にも出張して取材をしたり記者生活は充実していました。ところが1989年6月、天安門事件が起きたので云々。云々は民主化を求める学生たち

なったのです。日本のことを知らなければ日本語もできない。経済力も人脈もない。中国青年報で働いて5年。大きな新聞社ですし、そんな肩書きを捨てて完全にゼロから始めるなんてと不安もありました。ただ、妻から「ジャーナリストとして自分の目で日本を見てみたら。ダメだったら戻ればいいじゃない」と言われて決心しました。会社は理解を示してくれて、1年間は会社との雇用契約もポストも残しておくからと言つてくれました。1991年8月2日のことです。

ワイド インタビュー

562

訪日観光客が増えていくのを

一人一人を見てほしい

中国人観光客は再び増え出す。14年秋には安倍晋三首相と習近平国家主席が日中首脳として3年ぶりに首脳会談。風向きが変わってきた。14年に日本を訪れた中国人観光客は約240万人。対前年比で83%増と伸び率では突出している。

翌年の13年は応募者が減ると思ったんです。でも実際は違いました。13年の応募者は2936人で、288人も増えたんです。学校単位で応募しますから、政治の影響がないことはないと思うんです。でも、実際に増えた。そんな厳しい状況の中でも日本語を熱心に学ぶ中国人学生が多くいることがうれしかったです。

こういった学生たちは、これから中日関係にかかるあらゆる分野の最前線で活躍していく人材です。政治なら中国の対日政策に将来的に影響を与えていく人たちです。だから、そういう人材を大切にしていかなければならぬと思います。

「中日関係を絶対良くしたい。 そういう信念みたいなものが 必要だと思っています」

ただ、今の日本では、どうしても中国のマイナスイメージがつきまとつていて、これがマイナスイメージの言葉になっていますよね。一部の中国人のマナーが悪いのはその通りで、これは直していかなければならぬ。でも、中国人は本当にそれだけなんでしょうか。もう少し、一人の中国人を見て、交流してほしいなと思うんです。私は日本人には日本で気づいたこ

どう思いますか。

段 もちろん、いいことだと思います。もともと、中国人ってメディアの裏をいつも読んでいるんですね。例えば、メディアで日本の悪いことが書いてあつたら、日本は本当はいいところなんじゃないかって考える。インターネットの発展など情報のレベルが上がって、日本のおいしい食べ物や名所などの情報を簡単に入手することができるようになつたのも大きいでしょう。

とを中国にたくさん持ち帰つてほしいと思います。東京はなぜ、こんなに素晴らしい都市なのかとか。それを作り上げた人たちはどんな人なんだろうかとかを考えほしい。中国に戻つたら、例えば自分が車を運転する時に道を譲るとか、クラクションをむやみに鳴らさないとか、そういうことから始めて一つ一つ積み重ねていけば、中国もより良い社会になるはずです。

—— 政治面の日中関係に変化はある

忘れません。肌身で日本人の優しさを知っているから、民間交流が大切だと胸を張つて言えるんです。

民間交流というのは政治の関係が良い時ではなく、悪い時にこそ重要なになります。だから、中日関係は絶対に良くならないといけないと

いう信念みたいなものが必要だと思います。

—— 来年で出版社を立ち上げてから20年です。これからどういう出版活動をしていきたいですか。

段 中日関係が悪くなつた時、いわゆる嫌中本や反中本ばかりが本屋に並びました。今もそうです。それらは実際、売れていました。ただ、売れる本は必ずしも良い本とイコールではありませんし、売れない本も必ずしも悪い本ではありません。私の出版社は中日関係の分野にこだわった小さな出版社かもしません。た

だ、両国関係が悪くなつたからといふて、ぶれる出版社ではあります。

出版社は中日関係の分野にこだわった小さな出版社かもしません。た

くことは目標ですが、それだけではだめです。派手でなくとも、そういう

人間も必要なんですよ、社会には人々が良心を持つて生きている。こ

れからも、日中関係の発展にかかる多くの人々の奮闘ぶりを記録し続

ける出版社でありたいと思っています。

うが、ちゃんと新聞に載った。これが言論の自由かと驚きました。それなら、(中国の悪い面ばかりが報道されてしまうなら)私が中国の良い面を日本人に紹介する出版をしてみよう。そんな思いで出版社を立ち上げました。

反日デモで大量の返本

—— 反日デモが起きた時、どう感じましたか。

段 デモが起きたのは9月15日です。その日は私は北京の日本大使館の真正面のビルで開かれていたシンポジウムに出ていたので、目の前でデモを見ることになりました。中国でこんなに大きなデモを見たのは天安門事件以来、初めてで。ショックでした。「もう一度東京を壊滅させろ」とか激しいスローガンが掲げられていて、これからの中日関係がどうなつてしまふのだろうかと、とにかく不安になりました。

國交正常化から40周年の節目でしたから、12年は私もそれを記念するために何かをしたいと思って、7月から全国の40ヵ所の書店にお願いして、「中国を知るための40冊」というブックフェアを企画していたのです。しかし、その年の秋に反日デモが起きると、状況は一気に厳しくなりました。追加注文はなくなつて、



来日して間もない頃に上野駅の前に立つ段躍中氏=1992年撮影

像が繰り返し流れ、中国は嫌いとかつた。中国人が皆、あんなふうに暴力的なデモをする人ばかりではない。これをどうやって日本人に伝えたらいいんだろうと考えていました。そんな時、大手新聞社の中国特派員と知り合って、話をしていたんです。そうしたら、彼も中国の正確な姿を日本に伝えるにはどうしたらいいのかと悩んでいました。反日デモは実際に起きていた事実ですが、中国はそれだけではない。報道の現場にいる記者たちは偏った見方をしているわけじゃない。そのうちに悩んでいた。

それで、そういう彼らの苦労や奮闘ぶりを伝えたいと思つたんです。中国に駐在する、もしくは駐在したこのある新聞社やテレビ局の記者の皆さんに文章を書

いてもらつて、「日中対立を超える作文コンクールの存在もメディアで注目されました。

段 この作文コンクールは05年に始めたものです。全国各地で日本語を学ぶ留学未経験の学生が対象です。3位以上の人には日本への留学費用の奨学金の資格が認められます。これまでに延べ2万7000人が参加しました。反日デモが起きたために派員と知り合つて、話をし

てました。中国の学生による日本語の作文コンクールの存在もメディアで注目されました。

段 この作文コンクールは05年に始めたものです。全国各地で日本語を学ぶ留学未経験の学生が対象です。3位以上の人には日本への留学費用の奨学金の資格が認められます。これまでに延べ2万7000人が参加しました。反日デモが起きたために派員と知り合つて、話をし

—— そもそも出版社立ち上げのきっかけは。

段 1992年に日本の新聞に投書が載つたんです。その頃、中国人犯罪組織のことがよく取り上げられていましたが、中国人というだけで何か犯罪者かのように扱われる雰囲気があつた。それはおかしいと思つて、外国人の明るい側面も報道すべくという投書をしたんです。日本社会にとつては批判的なことでした。

—— そもそも出版社立ち上げのきっかけは。

段 1992年に日本の新聞に投書が載つたんです。その頃、中国人犯罪組織のことがよく取り上げられていましたが、中国人というだけで何か犯罪者かのように扱われる雰囲気があつた。それはおかしいと思つて、外国人の明るい側面も報道すべくという投書をしたんです。日本社会にとつては批判的なことでした。

國交正常化から40周年の節目でしたから、12年は私もそれを記念するために何かをしたいと思って、7月から全国の40ヵ所の書店にお願いして、「中国を知るための40冊」というブックフェアを企画していたのです。しかし、その年の秋に反日デモが起きると、状況は一気に厳しくなりました。追加注文はなくなつて、



今も交流が深い村山富市・元首相と段躍中氏。2002年に中国大使館で